

大きくなって帰ってきてね

津森小児童がウナギの稚魚を放流

津森小学校の横を流れる木山川で7月5日、同校4年生児童11人が、ウナギの稚魚を放流しました。これは、緑川漁業協同組合(坂本猛組合長)の協力で毎年、緑川水系にある小学校や保育所・幼稚園で行われているものです。

この日は、ウナギの稚魚 20kg、約 1,700 匹が同漁協で用意され、バケツに分けられたあと、子どもたち一人一人に手渡されました。

最初はヌルヌルと指先から逃げ出すウナギに悪戦苦闘の子どもたちでしたが、慣れてくると上手に一匹一匹を放流していました。子どもたちは「よく見ると、お口がかわいい」「大きくなって帰ってきてほしい」と笑顔で話していました。



ウナギを放流する子どもたち



ていねいに苗を植え付ける子どもたち

実りの秋を楽しみに

益城中央小5年生が田植え体験

6月23日、益城中央小学校(北本修吾校長)の5年生80人が、同校西側の水田約8アールで田植え体験をしました。

この日植えたお米の品種は「にこまる」。町青年農業者クラブの堀部龍一会長から植え方を教わった子どもたちは、苗の束を持ち、会員が田んぼの両側まで張ったひもに沿って、1株1株ていねいに植え付けていました。

最初は田んぼの冷たい水とぬかるむ感触に「キャー、キャー」と声を上げていた子どもたちも、1時間ほど植え続けるとすっかり手つきが良くなり、「早く育つといいな」「秋の収穫が楽しみ」と笑顔を見せながら話していました。



▲活気あるパネルディスカッション(次回は10月開催)

ミナテラスでは「飯田山の山野草と写真展」が同時開催▶



6月25日、魅力ある飯田山を目指そうと、平成18年に町民主導で立ち上げられた「ましき宝箱」による第1回ふるさとフォーラムが開催され、町内外から約50人が参加しました。スライドを使い飯田山の概略や登山コースの紹介の後、東海大学の鈴木康夫教授が「地元の特技を活かしたま

ちづくり」と題して基調講演。パネルディスカッションでは、鈴木教授、森永教育長、河原三代志さん(惣領1町内)、田中次範さん(飯田)をパネリストに、参加者と「益城四山を縦走できるコースが欲しい」「子どもたちが自然を楽しめる環境作り」などの活発な意見交換がなされました。

飯田山を益城町の里山に

「第1回ふるさとフォーラム」